

SDGsフェスティバルに出展しました！

2025年11月21日（金）に名古屋東京海上日動ビルディングで開催された「SDGsフェスティバル in名古屋丸の内」（開催：東京海上日動火災保険株式会社／株式会社十六フィナンシャルグループ）のオープニングイベントにおいてブース展示をしました。

当日は、経営学を楽しく学べる「ねこ店長の経営学」や1日の感情を整理できる「パッチワーク日記」など、本学の研究、教育、学生活動の取り組みを中心に、SDGs達成に向けた活動を成果物やポスター等を使って、来場者に広く紹介しました。

行政、企業、他大学など多くの方々にブースへお立ち寄りいただき、SDGsの取り組みをはじめ、多彩な有益情報を交換することができました。



ブース出展の様子

SDGsセンターシンポジウムを開催しました！

2026年1月22日（木）、SDGsセンターシンポジウム「地球規模の課題にどう向き合うか SDGsとプラネタリーヘルス - 名市大の研究から見える視点」をさくら講堂にて開催しました。

今年で4回目となる本シンポジウムでは、地球環境の健全性が人間の健康に深く繋がっているという考え方である「プラネタリーヘルス」をテーマに掲げ、長崎大学熱帯医学・グローバルヘルス研究科プラネタリーヘルス学環の渡辺知保教授をお招きし、プラネタリーヘルスの概念やその重要性について、具体的な事例を交えながらご講演いただきました。その後のパネルディスカッションでは、本学医学研究科 伊東直哉教授、上島通浩教授とデータサイエンス研究科 辰己賢一教授に加え、渡辺先生にも登壇いただき、SDGsセンターの高桑修副センター長の進行のもと、地球規模の課題に対し、分野の垣根を越えた活発な意見交換が行われました。

基調講演およびパネルディスカッションを通じて、プラネタリーヘルスに対する理解が深まり、ポストSDGsの方向性や取り組みについて考える有意義な機会となりました。



基調講演の様子



パネルディスカッションの様子

【予告】Human Feedback プロジェクト2026を開催します！

2026年2月22日（日）にHuman Feedback プロジェクト 2026「動物とヒトとの共存～そのために私たちに何ができるか？～」と題した講演会を東山動植物園と共同で開催します。

本プロジェクトは1995年から始まり、「人の医療を動物に還元する」をテーマに東山動物園をはじめ全国各地の動物園と共に活動が続けられています。

当日は、看護学研究科の尾崎康彦教授が総合司会を務め、動物とヒトとの共存をテーマにした講演会を行います。

【概要】

日 時：2026年2月22日（日） 午後1時から午後3時

会 場：東山動植物園 動物会館レクチャーホール

定 員：80名（どなたでも参加できます）

※定員に達したため申込を終了しております※

詳細はこちらから





本学の研究や取り組みとSDGsとのつながりを紹介するコラムです。第5弾として芸術工学研究科の大野暁彦先生の取り組みをご紹介します！

農学×工学 ～人と自然をつなぐ空間づくり～



大野先生

専門は造園系です。大学・大学院では農学を学び、学部時代に出会った建築系の先生のもとで設計技術を学びました。
現在は、植物学の知見を工学分野（都市計画・建築・土木）に反映させ、緑（植物）を使って、人が快適に過ごせるような空間の設計を専門としています。また、その土地本来の自然や風土を尊重することを重視し、地域性種苗を活用した緑地づくりにも力を入れています。そうした視点も大切にしながら、里山づくりや緑地環境のデザインを通じて、人と自然をつなぐ場をつくっていくことを目指しています。

＼ 取り組みをご紹介します！

各務原市役所新庁舎「どんぐりのたねプロジェクト」

各務原市役所新庁舎の建設に際して、市民参加型の企画を通して新庁舎への親しみを持ってもらおうと、**同市内の公園に自生する樹木の種から苗木（地域性種苗）**を育て、新庁舎の敷地に植樹しました。地産地消による植物生産を行い、環境への負荷の少ない緑化の取り組みです。

地域性種苗とは？

緑化に用いる苗のうち、緑化や植林の対象となる地域に自然分布している種類で、かつ、植栽地からできるだけ近い自然の草地や森林に生える個体の種子から育てた苗木のこと。

地域の生物多様性（遺伝子や種の多様性）を守るために地域性種苗による緑化が注目されています。



◆そのほかにも大野先生が関わっているプロジェクト

高蔵寺駅南口駅前広場のデザイン

ニュータウンの玄関口として、「おかえりなさい」をコンセプトに温かみのある板張天井やインテリアのような照明・ベンチを採用し、ほっとできる空間をデザインがされています。また、駅前広場の植栽は、周辺の緑地から高木移植・林床移植、さらに緑地内で採取した種子から育苗した苗木を植栽するなど徹底して地産材を使用し、地域ごとの遺伝的多様性に配慮しながら、生態系ネットワークの拡充を図っています。



緑と人、自然と都市との関係性のバランスを大切にしながら、空間をどうデザインしていくか、一時的・一過性のものにせず時間の流れの中で考えていくことを大切にしています。



詳細はこちら！



SDGsセンター長
林 秀敏 先生

大野先生の取り組みは、造園や植物学の視点を建築や都市計画へとつなぎ、自然と人が共にある空間をつくり出している点が印象的です。特に、地域性種苗を活用した緑づくりは、その土地本来の自然を尊重しながら、人が関わる空間を持続的に育てていく実践的な試みだと思います。こうした取り組みは、SDGsの「11.住み続けられるまちづくり」や「15.陸の豊かさを守る」といった目標とも深く関わっており、環境への負荷を抑えながら地域資源を生かし、ウェルビーイングを高めるという点で、非常に意義のあるものだと感じています。

お問い合わせ

名古屋市立大学SDGsセンター事務局
（経営企画部企画課内）

〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄 1

Tel : 052-853-8806

Mail : ncu-sdgscenter@sec.nagoya-cu.ac.jp

<https://www.nagoya-cu.ac.jp/sdgscenter/>

